



なぜいまバウビオロギーか



バウビオロギーBN 石川恒夫氏(右)
バウビオロギーBJ 吉垣内英子氏

家は「自分らしく」が浸透

日本バウビオロギー研究会(事務局・群馬県前橋市)はこのほど設立10周年を迎え、3月に東京などで記念セミナーとBAU会議を開催した。2011年に始めた主要活動の「バウビオロギー通信教育講座」は受講生が50人に達し、今期で13人の資格者を送り出す。2年にわたり2000頁ものテキストを学ぶ講座が人気を呼ぶのはなぜか。

学びの場 格好の教材に

活動をリードする前橋工科大学教授の石川恒夫さんは「バウビオロギーの思想が今後の家づくりに欠かせないものとして認知されてきた」と話す。石川さんによると、その理由は住まい手の「主体性の回復」に対する希求の高まりだ。家を通じた自己実現、自分らしさの実現を求める人が増えてきた。平たくいえば、気持ちのいい季節に窓を開けたり閉めたりする、天気の良い日に思いっきり掃除をする。そうして常に建物と関係を持ち、歳をとっても元気がよく暮らせる場を願う人が増えたということ。思想のルーツとされるルドルフ・シュタイナーの考えについて、石川さんはこう語る。「そもそも健康とは何かと考えると、目標ではなくプロセス。普通、病気は薬や手術で除去すべきものだが、シュタイナーは病気も恵みとし、意味あるものと考えている。治療の主体はあくまで患者。専門家は自己治療力が発揮されるようサポートするのが役目」。病気がその人の一部であるように、家もまた居住者の一部。個性や人生観、死生観が自ずとあらわれる。それを表現する媒体(素材やデザインなど)も、人工的なものより、人間の感覚や動きを尺度にしたものになるのが自然だ。

●吉垣内英子氏(ピオ・ハウス・ジャパン一級建築士事務所)に聞く

—バウビオロギーの魅力は何ですか?
私たちの知識は、真面目に住まいを考えている人に、真面目に対応するために必要なもの。包括的な学問であるバウビオロギーは、学びのための有効なテキストです。
—資格のメリットはありますか?
勉強することは、目に見えない引き出しをたくさん持つこと。家づくりにさまざまな要素を総合的に判断しなければならぬ局面が多くあります。そのとき、条件に応じて適切なアドバイスができるかは重要で、それが資格のメリットです。
—住まい手の変化は感じますか?
単に住めればよい人には、一律の基準やマニュアルで対応できるかもしれません。しかし住まいで自己実現したい人をサポートするには知識と経験が不可欠。安く大量に建ててきた時代が終われば、自ずと自己実現を求める人が増えるでしょう。

個性や人生観、死生観を養うものは「学び」
だ。何をもちよしと
するのには、最終的に
自ら判断するしかない。
自身を取り巻く環境に
導く指針として、バウ
ビオロギーが格好のテ
キストになっていると
石川さんはみる。